

一 般 質 問 通 告 書

令和 7年 2月 26日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 15 番 廣部 真造

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
②. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2)	独居高齢者宅など介護福祉現場での犬猫の多頭飼育課題の 発 言 事 項 対応について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>令和4年6月定例会でも同様の質問をいたしました。その後、公益財団法人どうぶつ基金が実施している「さくらねこ無料不妊手術事業」(行政枠)のお世話になることとなりました。それまで、ボランティア団体や個人の善意にすべて依存する状況であったものが、資金負担軽減に繋げることが出来ました。一方、介護福祉現場などで見受けられる不適切な多頭飼育の現状は、なかなか改善されていません。また、具体的な取り組みも不十分であると感じています。</p> <p>環境省もガイドライン『社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて』として示しています。自治体内における社会福祉と動物愛護管理の多機関が連携して解決にあたること。官民を超えた連携が重要であるとガイドラインに明記されています。「飼い主の責任」を都合よく使い続けることは課題解決に繋がりません。滋賀県も介護福祉現場での不適切な多頭飼育の課題を認識しています。しかしながら、行政の積極的な関わりが不十分であると考えます。</p> <p>実際に独居高齢者が自宅で多頭飼育をしていたが、入院となった途端に誰が世話をするのかといった問題が発生しています。その際に行政が頼るのは、ボランティア団体や個人</p>	

です。その団体の代表者も今後の活動を継続することの困難さを訴えておられます。解決すべき課題であると認識をしながら、具体的に取り組みが進んでいないと感じております。独居高齢者宅など介護福祉現場における多頭飼育課題に関する市の見解を伺います。